

高齢者の口腔機能の評価と 口腔健康管理

COVID-19 再拡大の周期的な波を経験するなか、SARS-CoV-2 との共存 (withコロナ) を基本とし、感染予防策に配慮しながらの行動制限緩和をはじめ社会経済活動の正常化に向けた取り組みが進みつつあります。一方で、一昨年の緊急事態宣言発出後の強力な社会活動制限は、経済・産業はもとより人々のライフスタイルや健康に多大な影響・支障を与え、活動頻度の減少が身体的フレイルだけでなく精神心理的フレイルや社会的フレイルの加速を招いた可能性があります。要介護リスクは諸々の要因が複雑に絡み合っており高まるといわれていますが、さまざまなフレイルの悪化もその一つと考えられます。滑舌低下など生理的老化だけでなく心身の機能低下にまで繋がる一連の現象・過程として捉えられているオーラルフレイルも、要介護リスクの一因であることが報告されています。また、生活習慣病や老年症候群といった介護が必要になる疾病や兆候の多くが口腔機能の低下と密接に関連していることが、多くの報告によって示されてきています。

このような背景から、福祉・介護の分野において口腔健康管理が介護予防や食支援の一翼を担うことが認知されつつありますが、口腔環境を劣悪にしている原因や状況を周囲の職員が早期にかつ的確に把握するだけでなく、対象者自らがいち早くそれに気づくための歯科からの情報発信が今後さらに重要になってくると考えられます。

歯科医療技術の進歩や歯科口腔保健の推進により、保有歯数の増加をはじめ高齢者の口腔状況は従前と比べ大きく変化しています。この変化を踏まえつつ、医療・福祉・介護分野の多職種がさまざまな場面に関わる口腔健康管理において医科・歯科間も含め互いの分野がどのように連携するのか、その可能性も含め口腔衛生と口腔機能が表裏一体の関係であること、“健口”が健康に寄与するといったフレーズをもとに概説したいと思います。

講師

尾崎 和美 先生

歯科医師／徳島大学大学院 教授（口腔保健支援学）



略歴

- 1989年 徳島大学歯学部卒業
- 1989年 徳島大学歯学部歯科保存学第一講座 助手
- 1995年 博士（歯学）号取得
- 2000年 徳島大学歯学部附属病院第一保存科 講師
- 2007年 徳島大学 教授 歯学部 口腔保健学科 口腔保健支援学講座
- 2008年 徳島大学大学院 教授 ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔保健支援学分野
- 2015年 徳島大学大学院 教授 医歯薬学研究部 口腔保健支援学分野（名称変更）
現在に至る

学会活動

- 特定非営利活動法人 日本歯科保存学会 評議員
- 特定非営利活動法人 日本歯周病学会 評議員

専門医等

- 特定非営利活動法人 日本歯科保存学会 保存治療専門医・指導医
- 特定非営利活動法人 日本歯周病学会 歯周病専門医

受賞歴

- 2020年1月 令和元年度 e-とくしま推進財団 表彰（公益財団法人e-とくしま推進財団）
- 2020年1月 令和元年度 徳島県地域情報化 表彰（徳島県）
- 2020年2月 徳島大学大学院医歯薬学研究部長 表彰

Memo
